

2025年（第9回）

鳥栖・ツアイツ子ども交流事業報告書

令和7年7月19日（土）～8月3日（日）

派遣先：ツアイツ市（ドイツ連邦共和国）



鳥栖市・鳥栖市教育委員会

* 目 次	1
* 鳥栖・ツアイツ子ども交流事業参加者名簿	2
* 事前研修	3
* 訪問日程表	4～5
* ツアイツ市概要及びツアイツとの交流のあゆみ	6～9
* 参加者の感想	10～19
* 日 記	20～36



鳥栖・ツァイツ子ども交流事業参加者名簿

【団員】

生徒氏名		年齢(歳) (出発時)	性別
桑原 葵	KUWAHARA AOI	17	女
ティグリー ジェシカ	TIGLEY JESSICA	17	女
檜枝 宏樹	HIEDA HIROKI	17	男
宮原 識支奏	MIYAHARA SHIENA	17	女
豊増 恒生	TOYOMASU KOKI	16	男
樋口 桃子	HIGUCHI MOMOKO	16	女
竹村 洋亮	TAKEMURA YOSUKE	14	男
山下 莉世	YAMASHITA RISE	13	女
松村 姫奈	MATSUMURA HINA	12	女

【引率】

所 属	役職	氏 名		性別
鳥栖市 市民環境部 市民協働課 男女参画国際交流係	係長	大石 文枝	OISHI FUMIE	女
鳥栖市 市民環境部 市民協働課 男女参画国際交流係	主事	西山 奏真	NISHIYAMA SOHMA	男

事前研修

○5月25日(日) オリエンテーション

スケジュールについて

団員自己紹介

旅行手続説明

ドイツ滞在中の注意事項



○6月 8日(日) 第1回事前研修

ドイツ文化(ドイツクイズ)

ドイツ語(アルファベット、数字、自己紹介等)

研修テーマの検討

送別会の出し物検討



○6月15日(日) 第2回事前研修

ドイツ文化(ドイツクイズ)

ドイツ語(アルファベット、数字、自己紹介等)

研修テーマの検討

送別会の出し物練習



○6月22日(日) 第3回事前研修

英語(日常会話、自己紹介等)

研修テーマの決定

送別会の出し物練習

リーダー、副リーダー決定

日記担当の決定

結団式・解団式の日程決定



○6月29日(日) 第4回事前研修

ドイツ文化(ドイツクイズ)

ドイツ語(数字、日常で使う会話、自己紹介等)

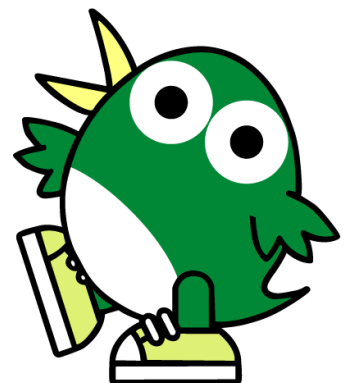
送別会の出し物の決定

○7月6日(日) 第5回事前研修

英語(日常で使う会話)

ホストファミリーへのお土産作成

送別会の出し物の練習



結 団 式

7月18日（金）

本 研 修

7月19日（土）～

8月 3日（日）

解 団 式

8月 3日（日）

事後研修

9月14日（日）

研修テーマのまとめ

報 告 会

11月 9日（日）

ツァイツ市公式訪問団派遣事業と合同で
報告会を開催。（鳥栖北まちづくり推進センター）

パネル展

12月18日（木）～

12月26日（金）（予定）

ツァイツ市公式訪問団派遣事業と合同で
パネル展を開催。（市役所1階市民エントランスホール）

**訪問日程表**

月日	時間	内容	移動方法	備考
7月19日 （土）	5:30	市役所に集合	各自	
	6:45	福岡空港国内線到着	貸切バス	
	7:55	福岡空港出発（ANA242便） ～9:40 羽田空港到着	飛行機	
	11:45	羽田空港出発（LH717便）	飛行機	
	}	（時差 －7時間）		
	19:00	フランクフルト国際空港到着/入国手続		
	21:00	フランクフルト空港内ホテル着（宿泊）	徒歩	
7月20日 （日）	8:50	フランクフルト空港出発（LH156便）	飛行機	
	9:50	ライプツィヒ空港到着 ツァイツ市・受入家庭出迎え/各家庭へ	自家用車	ホストファミリーと一緒に
7月21日 （月）	10:30	ツァイツ市役所 市長表敬訪問 ツァイツ市役所見学（市役所の塔登り）	徒歩	
	13:00	昼食（レストラン「ルスティカ」）		
	14:30	ツァイツ地下通路見学	自家用車	
	16:00	解散・受入家庭へ帰宅		
7月22日 （火）	9:00	露天掘り採石場の見学	大型自動車	
	11:00	アドベンチャーゴルフ		
	13:00	昼食（ピクニック）		
	14:00	マルクレーブルク湖で小遠足		
	16:00	解散・受入家庭へ帰宅	自家用車	

月日	時間	内容	移動方法	備考
7月23日 (水)	8:00	ライブツィヒへ出発	大型自動車	
	9:00	ライブツィヒ大学を訪問	徒歩	
	12:00	昼食（ライブツィヒ市内レストラン）	徒歩	
	13:00	ライブツィヒ市内見学（行政最高裁判所他）	徒歩	
	15:00	ツァイツ市へ移動	大型自動車	
	16:00	解散・受入家庭へ帰宅	自家用車	
7月24日 (木)	8:00	ハレへ出発	大型自動車	
	9:00	ハローレン・チョコレート博物館見学		
	12:00	昼食（動物園）		
	13:00	動物園見学		
	15:00	ツァイツ市へ出発		
	17:00	解散・受入家庭へ帰宅	自家用車	
7月25日 (金)	9:00	G f Mで職業訓練体験	徒歩	ツァイツ市学生と一緒に
	12:30	昼食（G f M）		
	13:30	G f Mで職業訓練体験		
	15:00	解散・受入家庭へ帰宅	自家用車	
7月26日 7月27日 (土・日)		ホストファミリーの企画		
7月28日 (月)	9:00	託児所訪問	大型自動車	ツァイツ市学生と一緒に
	10:30	モーリッツブルク城・城公園・日本庭園訪問		
	12:30	昼食（シュタービル）		
	14:00	青少年の家で太鼓のワークショップ		
	16:00	ツァイツ市へ移動		
	16:00	解散・受入家庭へ帰宅	自家用車	
7月29日 (火)	9:00	コロリート劇場訪問/劇制作	大型自動車	ツァイツ市学生と一緒に
	12:00	昼食（コロリート劇場）		
	13:00	ブーヘンヴァルト強制収容所訪問事前研修		
	16:00	解散・受入家庭へ帰宅	自家用車	
7月30日 (水)	9:30	市庁舎で歓迎会（鳥栖市長・市議会議長出席）	大型自動車	ツァイツ市学生と一緒に
	10:30	乗馬クラブ		
	13:00	昼食（乗馬クラブ）		
	14:00	柔道（格闘技）クラブ訪問		
	16:30	解散・受入家庭へ帰宅	自家用車	
7月31日 (木)	8:00	ブーヘンヴァルト強制収容所へ移動	自家用車	
	9:00	ブーヘンヴァルト強制収容所見学	大型自動車	
	13:00	昼食（ワイマール市内レストラン）		
	14:00	ワイマール市内見学		
	16:00	ツァイツ市へ移動		
	17:00	解散・受入家庭へ帰宅	自家用車	

月日	時間	内容	移動方法	備考
8月1日 (金)	9:00	レーベックセンター見学・籠編み体験	大型自動車	ツァイツ市学生と一緒に
	12:00	昼食（シュタービル）		
	13:00	送別会出し物の準備・練習		
	18:00	ツァイツ市関係者、ホストファミリーと送別会		
	22:00	解散・受入家庭へ帰宅		ホストファミリーと一緒に
		ホストファミリーの企画	自家用車	
8月2日 (土)	8:30	ライプツィヒ空港集合・待合/搭乗手続	各自	
	10:30	ライプツィヒ空港出発（LH161 便）	自家用車	ホストファミリー見送り
	11:30	フランクフルト国際空港到着	飛行機	
	14:30	フランクフルト国際空港乗継/出発（LH716 便）		
	↓	（時差 +7 時間）		
8月3日 (日)	10:30	羽田空港到着/乗継	飛行機	
	12:20	羽田空港出発（ANA253 便）		
	14:15	福岡空港到着/入国手続・荷物受取		
	15:00	福岡空港出発	貸切バス	
	16:00	鳥栖市役所到着/解団式		
	16:30	解散		

ツァイツ市概要

位 置

- ツァイツ市はドイツの北東部にあるザクセン・アンハルト州の南端にあります。
- ツァイツ市はライプツィヒの南西42kmに位置し、ライプツィヒ空港まで車で約1時間ほどです。

面 積

87.16 km²

人 口

28,328人

特 徴

○交通の要所

ツァイツ市は、2つの高速道路A9、A4が近くを走り、市内でB2、B91、B180の3本の国道が交差しています。鉄道は、ライプツィヒ－ゲラ線が通っており、交通の便がよい街です。

○主な工業

化学工業が最も盛んであり、機械工業、環境工学、採炭工業、サービス業があります。

歴 史

- 1967年、ツァイツが「C i c i」の名前で文献にでています。中世の頃、司教の居住地として栄え多くの歴史的建造物が作られました。
- 19世紀半ばに、石炭鉱業が盛んになり、1900年代前半には、化学製品やピアノ、乳母車、褐炭処理機械が世界中に輸出されました。
- 1936年フッペルのピアノ製造工場が、ピアノ製造を停止、戦後工場は閉鎖されました。
- 1949～1990年ドイツ民主共和国（東ドイツ）に属し、計画生産のもと多くの工業が盛んでした。

ツァイツ市との交流のあゆみ

年	月	主な内容
1998	10	朝日新聞鳥栖通信局の記者が、フッペル社がドイツのツァイツ市にあったことを確認。
1999	3	「映画『月光の夏』を支援する会」事務局長が鳥栖市長の親書を携えツァイツ市を訪問。朝日新聞鳥栖通信局記者が同行。
	5	ツァイツ統括市長(日本の市長に相当)から交流を推進したいと返信がある。
2000	3	「鳥栖こどもピアノコンクール実行委員会」が、受賞記念コンサートに、ツァイツ市音楽学校校長及び生徒2名とツァイツ市職員を招待。
2001	4～5	「鳥栖こどもピアノコンクール実行委員会」代表、コンクール受賞者2名、秘書広報課長がツァイツ市を訪問。
2002	3～4	ツァイツ統括市長、学校文化局長が鳥栖市を訪問。今後の交流及び2004年庭園博覧会の日本庭園整備に対する技術協力について協議。
	6	市報でツァイツ市との文通希望者を公募。随時、希望者に手紙を配布し文通が始まる。
	6	鳥栖市緑化協力会会員2名と広報広聴課長が、ツァイツ市を訪問。日本庭園整備のための現地調査を行う。
2003	5～6	鳥栖市緑化協力会会員4名をツァイツ市へ派遣。庭園博覧会会場内に日本庭園完成。
2004	7	鳥栖市長を団長する総勢17名の訪問団がツァイツ市を公式訪問する。また、庭園博覧会“日本の週”で日本文化を紹介する。
2004	8	鳥栖市の中学生10名、引率3名がツァイツ市を訪問し、ホームステイにて日常生活や学校などを体験。
2005	4	ツァイツ統括市長をはじめとする4名が鳥栖市を公式訪問。企業視察、伝統文化体験、市民との交流を深め、教育、スポーツ分野での交流について協議。
2005	5	ツァイツ市の学生10名、引率2名が鳥栖市を訪問。ホームステイにて日常生活や学校・日本文化を体験。
2006	1	フッペル平和記念鳥栖ピアノコンクール受賞者がツァイツ市を訪問。ツァイツ市芸術発表会で演奏をするなど、音楽を通じて交流を深めた。
2006	8	鳥栖市の中高生10名、引率3名がツァイツ市を訪問し、ホームステイにて日常生活を体験。
2006	10～11	ツァイツ市の芸術家が、鳥栖市緑化協力会の協力により東公園(ドイツエリア)にモニュメント「月への28の望み」を制作。
2006	11	鳥栖市議会議長をはじめとする5名がツァイツ市を公式訪問し、議会や環境についてなど意見を交換。
2007	5～6	ザクセン＝ツァイツ公国350年祭に招待を受け、鳥栖市、フッペル平和祈念鳥栖ピアノコンクール実行委員会、鳥栖市文化連盟の代表者らが公式行事に参加し、ピアノコンクール受賞者が招待客らを前に演奏。
2007	7～8	ツァイツ市の学生10名、引率2名が鳥栖市を訪問。ホームステイにて日常生活や学校・日本文化を体験。
2008	3	アンナ・マグダレーナ・バッハ音楽学校マティアス・ブッター校長及び学生2名が鳥栖市を訪問。音楽学校生徒2名がピアノコンクール受賞者記念コンサートに出演し、音楽を通じて交流。
2008	7～8	鳥栖市の中高生7名、引率2名がツァイツ市を訪問し、ホームステイにて日常生活を体験。平和交流の一環として、ワイマール市にある強制収容所跡のブーヘンヴァルト記念館を見学。

年	月	主な内容
2008	7～8	鳥栖市長及び随員 1 名がツァイツ市を訪問。両市の新市長就任により初対面。子ども交流事業の期間中でもあり、子どもたちの交流と一緒に体験。
2009	6～7	ツァイツ市の学生 9 名、引率 2 名が鳥栖市を来訪し、ホームステイにて日常生活や学校・日本文化を体験。
2010	7	第 1 回ツァイツ市砂糖祭に招待を受け、ツァイツ市を訪問。鳥栖市長の代理として鳥栖市副市長、鳥栖市議会議長らが公式行事に参加。
2010	8	鳥栖市の中高生 10 名、引率 2 名がツァイツ市を訪問し、ホームステイにて日常生活を体験。平和交流の一環として、ワイマール市にある強制収容所跡のブーヘンヴァルト記念館を見学。
2011		東日本大震災によりツァイツ市からの来日が延期。ツァイツ市からの義援金約 233 万円が鳥栖ロータリークラブへ送金。この義援金は、鳥栖市長より気仙沼市長へ届けた。
2012	5	ツァイツ市市長をはじめとする 4 名が鳥栖市を公式訪問。友好交流都市協定を締結。エネルギー関連企業等の施設を視察し、さまざまな意見を交換。 ツァイツ市の学生 10 名、引率 2 名が鳥栖市を来訪し、ホームステイにて日常生活や学校・日本文化を体験。
2013	7～8	鳥栖市の中高生 10 名、引率 2 名がツァイツ市を訪問し、ホームステイにて日常生活を体験。平和交流の一環として、ワイマール市にある強制収容所跡のブーヘンヴァルト記念館を見学。ツァイツ市へ水害義援金約 159 万円を贈呈。
2014	5～6	ツァイツ市の学生 10 名、引率 2 名が鳥栖市を来訪し、ホームステイにて日常生活や学校・日本文化を体験。
2015	7	国立歴史民俗博物館で行われた「ドイツと日本を結ぶもの一日独修好 150 年の歴史―」に、両市の交流の歴史についてパネルを出展し、「日独友好関係者の集い」で、ツァイツ市が鳥栖市との交流事業について事例を発表。
2015	7～8	鳥栖市の中高生 10 名、引率者 2 名がツァイツ市を訪問し、ホームステイにて日常生活を体験。平和交流の一環として、ワイマール市にある強制収容所跡のブーヘンヴァルト記念館を見学。
2015	10	ツァイツ市 Folkmar・Kuntze 市長、同市営企業有限会社支配人 アンドレアス・フーケ氏、医師 ロビィ・シュルント氏の 3 名が鳥栖市を来訪。
2016	6～7	ツァイツ市の学生 10 名、引率者 2 名が鳥栖市を来訪し、ホームステイにて日常生活や学校・日本文化を体験。平和交流の一環として長崎にある平和公園や原爆資料館を見学。
2017	6	ツァイツ市 1050 年祭に招待を受け、ツァイツ市を訪問。鳥栖市長の代理として鳥栖市副市長をはじめ、鳥栖市文化連盟 8 名、鳥栖市緑化協力会 2 名が公式行事に参加。日本文化の公演及びワークショップ、日本庭園への技術提供を行った。
2017	7～8	鳥栖市の中高生 7 名、引率者 2 名がツァイツ市を訪問し、ホームステイにて日常生活を体験。平和交流の一環として、ワイマール市にある強制収容所跡のブーヘンヴァルト記念館を見学。
2018	7～8	ツァイツ市の学生 7 名、引率者 1 名が鳥栖市を来訪し、ホームステイにて日常生活や学校・日本文化を体験。平和交流の一環として長崎にある平和公園や原爆資料館を見学。
2019	7～8	鳥栖市の中高生 7 名、引率者 2 名がツァイツ市を訪問し、ホームステイにて日常生活を体験。平和交流の一環として、ワイマール市にある強制収容所跡のブーヘンヴァルト記念館を見学

年	月	主な内容
2019	7～8	国土交通省事業「姉妹都市等海外日本庭園修復モデル事業」を活用し、鳥栖市緑化協会と本市が共同で、ツァイツ市にある日本庭園の修復事業を支援した。 【派遣者：3人】 高取忠彦さん（㈱高取造園土木）、増田隆彦さん（㈱天本緑地造園）、末次圭吾さん（㈱高取造園土木） 【修復内容】 建仁寺垣支柱撤去、ステンレス製金具設置、支柱建て込み、建仁寺垣パネル設置、剪定作業、支柱設置、竹林剪定。
2020		新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ツァイツ市からの来日が延期。
2021		新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ツァイツ市からの来日が延期。
2022	8	鳥栖市の高校・大学生 7 名（平成 31 年度交流団員）、ツァイツ市の学生 4 名が参加するオンライン交流会を開催し、鳥栖市の交流団員がテーマ別に資料を見せながら、家や食べ物、習慣などの日本や鳥栖市のことについて英語で紹介しツァイツ市の学生たちと交流した。
2023	3	鳥栖市の高校 1 校・中学校 2 校の生徒たちが、ツァイツ市の学校の生徒たちに向けた交流動画を作成。動画の中で、生徒たちは鳥栖市や日本の文化、学校生活などについて英語やドイツ語を使って紹介を行った。内容の報告会と動画の贈呈式を鳥栖市役所で開催。
2024	3	鳥栖市の小中学校とツァイツ市の学校の児童生徒が絵画を互いに交換して、双方の市民に鑑賞してもらう絵画交流を実施。鳥栖市から児童生徒の絵画 23 点をツァイツ市に送った。ツァイツ市のこどもと市民の絵画計 35 点を鳥栖市役所に展示して市民に鑑賞してもらう絵画展を開催。ツァイツ市でも令和 6 年（2024）3 月 25 日～4 月 26 日に絵画展を開催。
2024	7	ツァイツ市の学生 10 名、引率者 1 名が鳥栖市を来訪し、ホームステイにて日常生活や学校・日本文化を体験。平和交流の一環として長崎にある平和公園や原爆資料館を見学。ツァイツ市クリスティアン・ティーメ統括市長も学生たちと共に鳥栖市を来訪し、子ども交流事業に参加して、市内の施設や企業等を視察。



団員の感想





ドイツでの体験から学んだこと

桑原 葵

私は今回のドイツ研修で、歴史や文化、日本との違い、そして言語について多くのことを学びました。訪問先は都市見学や博物館、動物園、城、劇場など多岐にわたり、毎日が新しい発見の連続でした。特に印象に残ったのはブーヘンヴァルト強制収容所の訪問です。わずかな時間でしたが、当時の施設や資料から戦争の悲惨さと人権の大切さを深く感じました。また、ホストファミリーとの会話で現地の学生が1年間かけて戦争について学ぶと知り、日本でも歴史教育をもっと重視するべきだと思いました。

ホームステイでは、ホストファミリーが毎日さまざまな場所へ連れて行ってくれました。バーベキューやドイツの郷土料理を味わい、夜はマシュマロを焼くなど、温かい交流を楽しみました。英語で会話するのは簡単ではなく、特に自分の考えを文章にして返すのに苦労しましたが、学校で習ったことを参考にしながら少しずつ慣れていきました。ファミリーは私の話を熱心に聞いてくれ、会話の中で日本の文化を紹介する機会も多くありました。

ドイツの生活では、日本とは異なる文化や習慣を数多く体験しました。朝晩の寒暖差が大きく服装選びに悩んだこと、リサイクルをするためにペットボトルはゴミ箱に捨てないこと、蜂は殺してはいけないことなど、日常の小さな違いが新鮮でした。挨拶の仕方や学校での発表の仕方なども、日本では当たり前と思っていたことが違っていて興味深かったです。

週末はドレスデンを訪れ、様々な教会や観光地を巡りました。美しい街並みや歴史ある建物は、写真では味わえない迫力がありました。また、現地の市場や公園で過ごした時間は、観光地とは違った日常の空気を感じられる貴重な経験でした。

この研修を通して、私は知識だけでなく、実際に見て聞いて感じることの大切さを学びました。異文化の中で過ごすことは不安もありましたが、そこで得られた体験や人とのつながりは、何物にも代えがたい宝物です。今回の経験を通じて、これからも歴史や文化を学び続け、世界と積極的に関わっていきたいと思います。





困難を通して学んだこと

ティグリー ジェシカ

私はツァイツ子ども交流事業に参加してドイツの文化、産業、歴史について多くのことを学ぶことができました。中でも印象に残っているのはブーヘンヴァルト強制収容所を訪問したことです。事前に勉強した戦時中に行われた信じがたい事実も訪問することによって受け入れることができました。今後、このような悲惨な集団行為を繰り返さないためにも歴史を学ぶことは大切だと改めて感じました。

ホームステイでは1日のプログラムが終わった後にホストファミリーと一緒に料理をし、ドイツの伝統的な料理や1日の疲れを取るためにドバイチョコを製作しました。一緒に活動をする事でドイツの食について深く知ることができ、貴重な時間を過ごすことができました。2週間目からは、留学生とホストファミリーの子供が集まってパーティーやボーリング大会が開かれました。



ドイツの学生たち全員と話すのは難しいと思っていましたが、この集まりがきっかけで話したことない人とも話すことができ人脈を広げることができました。

ドイツの生活の中で注意すべきだと思ったところは気温の差です。私は4日間、気温の差から体調を崩しました。1日目は気温が高く、慣れない環境で熱中症になりました。3日目からは気温が10度後半と寒く、治りかけていた風邪を悪化させ39.4°の熱を出しました。プログラムに参加する日数は少なくなりましたがホストファミリーの方々に支えていただき、体調が良くなってからは一緒に映画鑑賞や散歩をして親睦を深めました。予想外の体調不良でしたがホストファミリーとは長い時間を過ごすことができ、今ではいい思い出です。ですが、反省として事前から気温や服装について意識すべきだと思いました。

週末は他のホストファミリーと一緒にドレスデンを訪れました。第二次世界大戦後に再建された聖母教会は古い石材と新しい石材で色が違い、歴史を感じました。教会付近にはツヴィンガー宮殿やドレスデン城の壮大な壁画を見ることができ、ドイツの芸術を肌で体験する機会になりました。

この研修を通して私は、困難を乗り越える力と支えてくれた人々へ感謝の気持ちを表すことの大切さを知りました。2週間受け入れてくれたホストファミリーや研修でいろんなことを教えてくれた先生方に感謝の気持ちを伝えることができ嬉しかったです。今後も学習したことを活用して自分の成長につながるよう国際交流事業に参加していきます。





2週間のドイツでの生活で学んだこと

檜枝 宏樹

私にとって2週間のドイツでの生活は夢のような生活だったことに加え、多くの学びがありました。昨年受け入れた学生とその家族に会うことを一番楽しみにして日本を出発しロングフライトを終え、無事に会うことができました。しかし、久しぶりの再会だったこともあり緊張していました。初日は緊張からうまく英語を話せなかったけれども、ホストファミリーが私の話に親切に耳を傾け、理解しようと努めてくれたことで伝えたいことを徐々に英語で伝えられるようになりました。ホストファミリーと雑談したりする中で日に日に英語が上手になりました。英語でのコミュニケーションをもとに現地で出会った方々と繋がれたことが本当に嬉しかったです。

ツアイツ市が用意してくださったプログラムでは、たくさんのことを経験し、体験しました。建築歴が200年を超える教会を訪れたり、動物園に行ったりと様々な場所を訪れました。その中でも一番心に残っているのは、やはりブーヘンヴァルト収容所を訪れたことです。ガイドさんの話を聞きながら歴史について学ぶ中で、平和の尊さを改めて実感し、このプログラムの大切さも実感しました。週末には、ホストファミリーとキャンプに行き、ベルリン観光を行いました。日本では経験できない週末を過ごせて本当に良かったです。日に日に残り日数が減っていく寂しさを感じながらの日々でした。

ドイツでの2週間を通して私は多くの人に支えられました。一人で困っている時には声をかけてくれるホストブラザーややりたいことをさせてくれたホストファミリーに加え、日々のプログラムで一緒に過ごした団員や引率の方に本当に感謝しています。現地で出会った日本人の通訳の方とも深い交流ができ、家に招いて通訳してもらいながら一緒にドイツのカードゲームをホストファミリーと行うこともできました。このような貴重な経験をさせていただいたツアイツ市と鳥栖市への感謝と家族への感謝を忘れず日本での日々を送って行きたいです。





行って分かったドイツと日本の違い

宮原 識支奏

2 週間を通して、私はドイツで多くの学びと貴重な経験を得ることができました。昨年、ドイツから学生が来日し、私たちとともに 2 週間を過ごしたこともあり、ドイツ到着時には緊張よりも安心感の方が強く感じられました。空港で再会した学生たちに「元気だったか」と声をかけられ、互いにハグを交わした瞬間、私はこの研修に参加して本当に良かったと実感しました。

滞在中は、ツアイツ市および鳥栖市の市役所の方々の温かい支援を受け、安心してさまざまな活動に取り組むことができました。移動や言語面でのサポートをはじめ、常に私たちのことを気にかけてくださる姿勢には深く感謝しています。こうした支えがあったからこそ、日々の体験に集中でき、多くの学びを得ることができました。

ホストファミリーの家庭では、ホストファザーとホストマザーが学校の先生だったため、ドイツの歴史や教育制度、文化についてたくさん教えてもらう機会がありました。その時間はとても楽しく、学びも多く、大好きな時間となりました。また、夜には英語で日本の文化や習慣を紹介する機会もあり、言葉がどうしても通じないときはジェスチャーを交えて伝えました。ドイツの人々は笑顔で一生懸命聞いてくれる姿に感動しました。

さらに、幼稚園のような施設を訪れ、6 歳から 12 歳の子どもたちと交流した際には、みんなが自主性を持ち、自分の意見をはっきり発信しようとする力に驚かされました。ドイツの教育がしっかりしていることを実感でき、貴重な学びとなりました。

研修中は、ミニゴルフや動物園の訪問、教会や博物館、大学見学、演技や表現の学習など、多様な活動を通して日本とは異なる文化や生活様式に触れることができました。街並みや食文化、学校や家庭での生活の違いを知るだけでなく、日本文化を紹介する機会も得られたことは、貴重な体験でした。

特に毎日の食事では、ソーセージやシュニッツェルがよく出され、日本のトンカツに似たシュニッツェルは外はサクサク、中はジューシーでとても美味しく、ソーセージも種類が豊富で飽きることがありませんでした。



毎回の食事が楽しみで、ドイツでの生活の一部としてとても思い出に残っています。帰国後は本場の味を食べられなくなると思うと、少し寂しくも感じます。青少年の家での毎朝のテーブルサッカーも、協力と競争を通じて日々の成長を実感できる貴重な交流の場でした。

この 2 週間の経験は、まず家族の支えがあったこと、そして市役所の方々の手厚いサポートがあったことによって実現したものです。今回得た学びを今後に生かし、自主性や意見をしっかりと伝える姿勢を大切にしたいと思います。将来は国際的に活躍し、世界中に友人を作りたいので、ドイツで得た経験を自分の成長に確実に活かしていきたいです。



「交流事業に参加して」

豊増 恒生

私は昨年の夏にアルトゥルをホストファミリーとして受け入れた時、アルトゥルの英語がとても速く、自分がドイツへ渡航した時に会話ができるか心配でした。しかし、ホストマザーは丁寧にゆっくり英語を話す方で、すぐ不安は消えました。普段、学校の先生の分かりやすい英語を聞いているので、この時、日本語と同じように話す速さや口癖、若い人はスラングをよく使うなど、英語を話す個人差に気が付きました。



毎日の研修で、前半は主にツァイツ市から少し離れたライプツィヒやハレに行きました。マルクレーブルクの湖と森の組み合わせは日本では見れない景色で、ドイツに来たという実感が湧きました。広々とした自然の中でのアドベンチャーゴルフがとても楽しかったです。ツァイツ市内の活動ではドイツの学生と一緒に様々な体験をしました。日本庭園やフッペル社のピアノを見て、鳥栖市との繋がりを感じることができました。ピアノを弾かせていただいたことは、とても良い思い出となりました。研修後の夕方からは他の団員やドイツの学生達とも行き来があり、ボーリングやホームパーティを楽しみました。

ツァイツ市内で1番印象に残っているのは、ツァイツ地下通路見学です。地下は温度変化が少なく、お酒を保存する最適な場所だと気付いた昔の人はすごいと思いました。そして、ボランティアのみで地下を繋げ通路を作ったことに驚きました。

後半で、ワイマールのブーヘンヴァルト強制収容所へ行きました。事前に学習したうえで行きましたが、実際に行くと重々しい空気を感じ早く帰りたくなりました。しかし、過去にあったことを繰り返さないよう、きちんと学ぶことがとても大切だと思いました。

週末の土曜日はホストファミリーとドレスデンへ行きました。武器博物館の展示は輝いていて1番ワクワクする場所でした。街は彫刻が素晴らしく、黒っぽい建築物が多く厳かな街でした。日曜日はアルトゥルと散歩をしながら叔父さんの家へ行き、バーベキューをしました。大きなパプリカを丸ごと焼いていたのに驚きました。この日はゆったりとヨーロッパの休日を過ごすことができました。

最終日の送別会で私は書道を披露しました。周りにたくさんの人が集まり緊張しましたが、思っていた以上に喜んでもらえて嬉しかったです。まだ、たくさんの感想がありますが、ホストファミリーに心から歓迎してもらったことが1番嬉しかったです。交流事業に参加して視野を広げることができました。



「最高の出会い」

樋口 桃子

初めてのホームステイは驚きの連続でした。私は海外には何度か家族旅行として連れて行ってもらったことはあったものの一人でヨーロッパに行くのは初めてでした。

英語も話せない人見知りの私がどうやって、この2週間を乗り切るかを飛行機で考えているうちにライプツィヒ空港に到着しました。緊張しながらも出口を出たら大勢の人たちが私たちのことを温かく迎え入れてくれてとても安心しました。そこからの2週間は時差ボケと言葉の壁にぶつかり続け、苦悩の毎日でした。伝えたいことがあるのに、咄嗟に英単語が出てこないことや、聞き取れるけど話せないことが自分の中で悔しくてたまりませんでした。さらに、時差ボケで夜中は元気なのに、昼間は眠たいなど初めての事ばかりでストレスを感じやすい私には正直、地獄でした。

ですが、それ以上にドイツと日本との違いを見つけたり、毎日、色々な所に連れて行ってもらって、仲間と一緒にたくさん遊んで勉強することで新しい考えが次から次に出てくるのがとても楽しくて、今までにない自分をそこで発見することが出来ました。

その中でも、印象に残っていることは、休日に牧場に連れて行ってもらったことです。私は、幼いころから自然が好きで将来は、農業など自然を相手にする職業に就きたいと思っていました。そのことを知っていたホストファミリーの皆さんが私のために、ドイツの中でも大きな牧場に連れて行ってくれました。

普段、学校では畜産について学ぶ機会がなかった私には最高の休日でした。他の団員のみんなは「観光に行った」などという人が大半だったけど、観光は大人になってもできるけど、農業は日々進歩していて、現時点の日本とドイツの農業の違いを直で味わうことは今しかできないものだったので、とても貴重な経験ができてよかったです。

そして、なんと言ってもたくさんの出会いに恵まれたことが、一番の思い出でもあり、宝物です。ドイツでは交流事業に参加した学生以外にも、学生の友人たち、市役所の職員さんや運転手さんなど色々な方々と仲を深めることが出来ました。この出会いは、この事業に参加した人にしか得られない特権だと私は思います。

そして、この交流事業が安心安全に終わることができたのは、たくさんの人の支えと理解があって初めて成り立つことができたので、この経験をさせて頂いたことへの感謝をこれから私は自分の目標の取り組みの姿勢や結果で伝えていき、皆さんの期待に応えられるように何事にも全力で取り組みます。





「ドイツに行ってみて」

竹村 洋亮

私はこの2週間でツアイツ市の地下通路の見学やモーリッツブルク城を見学したり、チョコレート工場を訪問しました。これらのプログラムはどれも日本では体験できないことばかりで、とても新鮮で印象深いことでした。ドイツと日本の違う様々な文化を学びました。

特に心に残っているのは、ブーヘンヴァルト強制収容所訪問です。その空気は、とても重く、壮絶な雰囲気広がっていました。大量虐殺の現場や遺品、記念碑を見て、とても恐ろしくまた、胸が締め付けられました。今この地球では、戦争や差別がある場所もあります。同じ過ちを繰り返さないために、私たちは歴史から学ぶ必要、義務があります。また、私も人を傷つけない、お互いを尊重する、他人を思いやる心、差別しないことが大切だと改めて思いました。

市のプログラム以外で印象に残っていることは、料理を作ったことと家族団欒をしたことです。私はホストファミリーと夕飯にシュバイネブラーテンやザルツカルトフェルンなどを作りました。ドイツは日本と違い、ジャガイモが多く料理に出てきて、レシピも多かったように感じます。またドイツの伝統の「スカート」というカードゲームを教えてもらい、一緒にプレイし家族団欒の時間を過ごしました。ドイツ人は日本と比べて 家族団欒の時間を大切にしているようにも感じました。

また私は週末は少し離れた大きな都市に連れていってもらいました。1日目はドレスデンに連れていってもらいました。ドレスデンでは、ドイツ連邦軍軍事史博物館に行きました。そこでは、ドイツでの世界大戦などの闘いの遺留品や武器を見ました。そこで戦争の恐ろしさをより具体的にまた現実的に知ることができました。2日目はベルリンに連れていってもらいました。ベルリンでは国会議事堂やブランデンブルク門、テレビ塔などの建造物を訪問、見学したりしました。そこでは古い建物が多いドイツの中でも新しい建物を見て、古い建物と新しい建物それぞれの良さを学びました。

私のこの度の反省点として、自分の英語力の無さという点があると思います。私は中学2年生の時点で研修に参加したので、日常会話ができるほどの英語学習が十分に足りておらず、話せることができるものは最大限話せましたが翻訳機を使って会話をしてしまう場面もありました。そのため、私はこの研修を通して英語学習や第二外国語への意欲がとても高まったと思います。その悔しさをバネにこれからの英語学習を頑張りたいと思います。

またドイツ語への興味関心もとても深まったのでそれも勉強したいと思います。この研修で海外への興味もとても深まったので、これからも世界に視野を向けていきたいと思います。



「最高の思い出になった2週間」

山下 莉世

私にとっては初めての海外旅行・研修でした。一緒に行く仲間は年上の子が多く仲良くなれるか、ホストファミリーとコミュニケーションが取れるかなど不安と緊張でいっぱいの気持ちで参加しました。行きの機内では上着を着ても寒く、おなかを壊してしまい初日から不安の気持ちが大きくなりました。



しかしライプツィヒ空港に着くとホストファミリーが温かく迎えてくれ緊張が少し緩みました。そこから平日の昼間は仲間たちと一緒にショッピングを楽しんだりゲームをし、プログラム内で活動することで段々と年上の子たちとも仲良くなれ、今では呼び捨てで呼び合うほどの仲になりました。どの活動も本当に楽しかったです。ライプツィヒ市内見学では日本には無いような歴史ある大きな教会見学と、友達とわいわいショッピングモールで服やお土産を買うことを楽しみました。ピクニックではミニゴルフで苦戦し、元々露天掘りした場所に湖を作った場所で波の音と温かい日光に照らされながら友達との雑談はとても楽しかったです。その活動の中でも特に印象に残っている活動は、強制収容所訪問です。見学する前に予習をしていたので悲惨な歴史を深く考えることができました。そこでは捕らえられたユダヤ人の人が選別され、力の弱い子供や女性、障害者はすぐに殺され、男性であっても医師の診断により働ける体でなければすぐに殺され、多く働かされていた男性も捕らえられた人々のほんの数パーセントしかいないことがわかりました。そして死体の火葬場や殺されていた場所を見ると計画的なこの最悪の計画に本当に重く苦しい気持ちになりました。この強制収容所の見学をさせてもらい、この学んだことは絶対にみんなに知ってほしい、知らせるべきだと思い発表会で話そうと思います。最終日の送別会では、練習してきたダンスをみんなの前で楽しく踊りました。たくさん食べて、みんなで踊ったり運動したりして最高のパーティーになりました。最後はみんなで写真を撮ったりして別れを惜しみました。休日はホストファミリーとドレスデンに行き聖母教会やオペラハウスを見ました。また動物園にも行きホストファミリーとの時間を楽しみました。ドイツの料理は本当においしく、特にケバブは大きくておなかにたまり、ソーセージはとても太くジューシーで頬が落ちそうでした。そんな楽しかった2週間も終わりだとなるととても悲しくなりました。また機会があったらドイツに行きたいです。とても貴重なドイツ生活でした。

最後に引率していただいた大石さん、西山さん、本当にありがとうございました。



ドイツで学んだ人とのつながりと平和の大切さ

松村 姫奈

私は2年前、海外の同世代の人達との交流や、日本とか以外の生活の違いに興味を持ち始めました。そして、鳥栖市の姉妹都市であるドイツ・ツァイツ市との交流プログラムに参加することを決めました。日本から飛行機で数十時間かかる国へ行くのは初めてで、わくわくする気持ちと同時に、日本語が通じないことへの不安もありました。ヤスミンを家に迎えたときには家族がいたため、英語が話せないことへのもどかしさはあまり感じませんでした。しかし、ドイツに到着すると、お店の方もホストファミリーも通じないので英語が話せないことを申し訳なく思いました。けれども、その不安は数日で吹き飛び、現地での企画やホストファミリーとの生活を心から楽しむことができました、

ドイツでは毎日、午前中から夕方にかけてたくさんの企画を準備してくださり、充実した2週間を過ごすことができました。その中でも、私が1番印象に残っているのは、ブーヘンヴァルト強制収容所を訪れたことです。そこでは、悲惨な出来事が起きていた場所や写真を見ることができ、今は残っていない建物についても詳しく教えていただくことができました。収容されて人達の中には、今も生きている人がいると知り、80年前に本当にこんなことが起きていたのだと実感し始めました。しかし、やはりまだ完全に理解することはできません。私はこれまで、教科書でしか知らなかった戦争や差別をその場で感じ取ることができました。言葉で表しきれないほどの悲しみと、今の平和がどれほど尊いものなのかを強く感じました。この経験は、私にとってとても貴重で、世界の歴史をもっと学びたいと思うきっかけになりました。

ドイツの方たちが立ててくださった企画が終わってホストファミリーの家に帰ると、毎日ゲームや外遊びをして、映画に誘ってくれました。私はこうした日常的なことでも十分楽しかったのですが、特に印象に残っていることは、ホストファミリーの親戚の皆さんと一緒にバーベキューをしたことです。言葉はうまく通じなくても、ジェスチャーや笑顔で気持ちが伝わり、とてもうれしかったです。また、日曜日にはホストマザーとホストシスターのヤスミン、そしてホストマザーの姉妹と一緒にドレスデンに行きました。歴史的な建物や美しい景色を見ることができ、とても充実した1日でした。ホストファミリーに会う前は緊張していましたが、帰る頃には本当の家族のようになって、別れることがとても悲しかったです。

今回のドイツでの体験を通して、言葉や文化の違いを超えて、つながることの楽しさと大切さを知ることができました。この経験をきっかけにもっと語学を学び、世界の人たちと関わっていきたいと思いました。



日記





日時：令和7年（2025） 7月19日（土曜日） 天気：晴れ



今日の日程

福岡空港 → 羽田空港 →
フランクフルト国際空港 → 入国審査
⇒ フランクフルトのホテルで一泊

「いよいよ始まる！！」という気持ちもありつつ、実感も湧かないまま、家を出発しました。羽田空港に着き、ドイツが一気に近づく気がしたが、14時間という長いフライトに絶望しました。飛行機の中では日本観光をしていたスペイン人の方と英語で会話を行い、自分の英語が通じることが分かったので少し不安が和らぎました。男子3人で大富豪を何回もしました。高校生2人が中学生になかなか勝てず、めっちゃ悔しかったです。「もうそろかな」と思ってもまだ半分だったから本当に長くてきつかったが、飛行機の長さが男子3人の仲を深めることができました。思っていたより機内食が美味しくておにぎりを食べました。トランプをしたりアニメを観たり途中で寝てみたりしているとフランクフルト空港に着きました。とてつもなく長かったし「帰りもか」と思うと非常に辛かったです。全く知らない場所に着き、少し緊張したが無事ホテルに着けて久しぶりにリラックスできました。ホテルの部屋で西山さんと色々な話ができ楽しかったです。「明日が待ち遠しい」という気持ちで寝ました。飛行機の疲れから爆睡できました。

担当：檜枝 宏樹





日時：令和7年（2025） 7月20日（日曜日） 天気：晴れ



今日の日程

フランクフルト国際空港→
ライプツィヒ空港
ホストファミリーの出迎え
⇒各家庭へ

前日の長いフライトのおかげか良い睡眠がとれました。ホストファミリーとの再会は緊張しましたが、会えたことが嬉しくて緊張もすぐにはなくなりました。昼食はシュニッツェルと野菜スープでした。豚カツに似ていると噂のシュニッツェルは本当に似ていました。

午後はナウムブルクの観光に行きました。まず、最初にいちごとチョコとピスタチオ味のアイスクリームを食べました。全体的に味が濃厚で、また行くと約束しました、次に世界遺産に登録されているナウムブルク大聖堂に行きました。中には多くの彫刻があり、中世にタイムスリップした気分でした。まだホストファミリーに出会って1回目ですが、本当に親切にしてくださり、これからの滞在が楽しみです。また、夜は一緒に韓国ドラマを見ました。シャーロットはよくアメリカドラマを見るそうです。それでもイカゲームを見たことがあると言っていました。イカゲームがドイツまで進出していると知らなかったのが驚きました。今日は途中までしかドラマを見れなかったのが滞在中、たくさん一緒に見ようと思います。1日目ですがとても充実していて、今日も良い睡眠がとれる気がします。ツアイツを知らながら鳥栖のことを伝えていきたいです。



担当：ティグリー ジェシカ





日時：令和7年（2025） 7月21日（月曜日） 天気：雨



今日の日程

市庁舎で市長表敬訪問
市庁舎・市内見学・
昼食（ルスティカ）
ツァイツ地下通路見学
⇒各家庭へ

朝、青少年の家に着くと、まずはみんなでサッカーのボードゲームを体験しました。OWNゴールを連発しましたが、それが逆におもしろくて、とても楽しい時間でした。ドイツはボードゲームが盛んな国で、その文化に少し触れた気がしました。その後少し散策して、ツァイツ市長を訪問しました。ドイツ語で自己紹介するときは、とても緊張しました。市長が見せてくださった純金の工芸品は、輝きも重みも特別に感じました。また市庁舎の屋上から見た街並みは、雨で煙っていて幻想的でした。コンクリートとレンガで造られた建物が整然と並び、日本の建物とは色も形も違っていました。案内の方からツァイツの歴史や街についていろいろと教えていただき、少し詳しくなれました。

午後は地下通路を見学しました。階段を降りていくと、ひんやりとした空気に包まれて寒く感じました。暗い通路の奥に骸骨が見えたときは、本物と錯覚するほどで、背筋がスッと冷えました。歩きながらビールの歴史についても学びました。

一日を通して、異文化に触れることができ、とても充実した一日でした。



担当：桑原 葵





日時：令和7年（2025） 7月22日（火曜日） 天気 くもりのち晴れ



今日の日程

露天掘り採掘場見学

マルクレーブルクへ小遠足

アドベンチャーゴルフ／ピクニック

⇒各家庭へ

研修2日目は、楽しいアクティブな活動をしつつ、露天掘りの歴史について学習できました。マルクレーブルクに行く前に、実際に露天掘りをしている場所に連れて行ってもらいました。そこでは作業風景を高台のような場所から見る事ができました。また、その場所は、2035年で採掘が終了すると言っていました。その後は水を貯めて湖にしたり、農地などに再利用するそうです。ゴルフとピクニックで1日を終わると思っていた私たちには少し眠たくなる話でしたが、大切な歴史が知れてよかったです。日本では、このような場所はありませんでしたので、驚きでもありました。

その後は遊園地として再利用された場所に行きましたが、外から見るだけで遊べなかったのが少し悲しかったです。ですが、その後にしたアドベンチャーゴルフがとても楽しかったです。私たちのために引率してくださった西山さんとその他2人とチームを組み活動を行ったのですが、西山さんと全然話す機会がなかったので、西山さんの面白さや人生について語っていて、すごく楽しかったです。

その後は昼食を食べて、湖の周りを永遠に歩き回って、とても疲れましたが、とても楽しい1日になりました。

担当：樋口 桃子



日時：令和7年（2025） 7月23日（水曜日） 天気：晴れ



今日の日程

ライプツィヒ大学見学

昼食（ライプツィヒ市内）

ライプツィヒ市内見学（教会等）

⇒各家庭へ

7月23日（水）、この日は少し遠出をしてライプツィヒへ行きました。ライプツィヒは大きな街で、歴史や文化を感じられる建物が多く、とても充実した1日になりました。まず訪れたのはニコライ教会です。ライプツィヒで大きな教会の一つで、内部はヤシの木をモチーフにした柱が特徴的でした。自然を模したような美しい建築に感動しました。また、この教会にはドイツ最大級のパイプオルガンがあり、約6800本のパイプを持つそうです。歴史的にも重要な場所であると聞き、とても印象に残りました。

次にトーマス教会を訪れました。ここは作曲家バッハが教会音楽を担っていた場所で、祭壇の前には彼の遺骨が埋葬されています。さらに、1200年から続く少年合唱団があり、今でもコンサートや礼拝の際に歌声を響かせているそうです。長い歴史を持つ教会で、音楽と深く結びついていることを知り、実際にその場に立てたことを嬉しく感じました。

その後、ライプツィヒのメインストリートを歩きました。街並みは美しく、大学や歴史的建物が並んでいて散策するだけでも楽しかったです。

ライプツィヒ大学にも行きました。600年以上の歴史を持つドイツで2番目に古い大学で、有名な学者や人物を多く輩出してきたそうです。学部は街のあちこちに分かれており、大学の中には教会やオーケストラのコンサート会場もありました。道を挟んだ反対側にはオペラハウスもあって、文化的な雰囲気を強く感じました。大学のアルベルティーナ図書館にも立ち寄りました。戦時中に建物の3分の2が壊されましたが、貴重な本は空襲の一年前に安全な場所へ移されており、焼けずに残ったと聞いて驚きました。今は修復され、多くの歴史的な書物が保管されていて、市民も利用できるそうです。

マルクト広場にある旧市庁舎も見学しました。昔は市役所として使われていましたが、現在はライプツィヒ市の歴史博物館になっており、外観だけでも迫力がありました。街を歩くと自転車専用道路が整備されていて、自転車に乗る人が多いのも印象的でした。

最後にショッピングモールへ行きました。日本にはないような商品も多く、買い物をするのがとても楽しかったです。文化や生活の違いを実際に体験できて、いい思い出になりました。

ライプツィヒでの一日は、歴史や音楽、文化を肌で感じられるとても貴重な時間となりました。

担当：宮原 識支奏



日時：令和7年（2025） 7月24日（木曜日） 天気：晴れ



今日の日程

ハローレン博物館見学

昼食（ハレ動物園）

ハレ動物園見学

⇒各家庭へ

ドイツで一番古いチョコレート工場の見学に行きました。チョコレートの歴史とカカオの中身を知ることができました。その後チョコレートでできたウサギや部屋やグランドピアノを見ることができギネス記録に残っている最大のチョコレートを見てその大きさに驚きました。その後動物園に行き、まずは昼食でソーセージを食べ、その後動物園を回りました。ソーセージは日本の物に比べ大きく肉汁がたれジューシーでした。動物園は広く、日本にはいないような動物がいました。また、一種類の頭数多かったです。見ていて飽きなかったのもう少しゆっくり見たかったです。一旦家に帰りその後みんなで市役所の庭でカラオケを楽しみました。多くの人が来ていてその前で歌うことは緊張しましたが、周りが盛り上げてくれたので歌いやすかったです。他の人は海外の歌を歌っている所以我们は日本の有名な歌を歌って場を盛り上げました。日本とは違い外でみんなの前で歌うカラオケは珍しく楽しかったです。そこで夕食として初めてケバブを食べました。とても大きくて結構おなかにたまりました。

担当：山下 莉世





日時：令和7年（2025） 7月25日（金曜日） 天気：晴れ



今日の日程

職業訓練所で職業体験

昼食（職業訓練所）

V R体験

⇒各家庭へ

本日は、令和7年度鳥栖・ツアイツ子ども交流事業の日記担当として、私の体験を記録いたします。私は、G f Mという職業訓練所で図形の作成や木工、ドイツ風のサラダ作りなど、幅広い職業体験をさせていただきました。初めは、言葉の壁に不安を感じましたが、スタッフの方々の丁寧なサポートもあり、徐々に作業に慣れることができました。木工では道具の使い方や安全面に注意しながら作品を仕上げる達成感があり、サラダ作りでは、食文化の違いを直に体験できました。初めは不慣れな環境に戸惑うこともありましたが、現地の方々との交流を通して徐々に自信がついてきました。今回の経験は単なる職業体験にとどまらず、異なる文化や価値観を尊重し合う大切さを教えてくれました。残りの滞在期間も積極的に挑戦し、多くのことを吸収していきたいと思います。

担当：竹村 洋亮





日時：令和7年（2025） 7月26日（土曜日） 天気：晴れ



今日の日程

受入家族の企画

土曜日は、私がクラシック音楽に興味を持っているということでホストファミリーがヨハン・セバスチャン・バッハの博物館に連れて行ってもらいました。私は、ドイツ語ばかりで意味が分からないかもしれないと心配していましたが、日本語に変換して説明をしてくれる機械を貸してくださったので、バッハの育ちや家系、作った音楽について詳しく知ることができました。また、バッハのものだと確定されている家宝も見ることができ、初めて見る物がたくさんありました。

博物館を見終わった後はマックに昼食を食べに行きました。ドイツのマックの看板は日本と違い、赤と黄色ではなく、緑と黄色で驚きました。なぜだろうと思い調べてみると、ヨーロッパでは、マックは体に悪いというイメージがあり、そのイメージからはなすためにヘルシーで環境にやさしいイメージを与える緑色に変更したそうです。緑色に変更することで、売り上げは上昇したそうです。私はマックでもう一つ驚いたことがあります。それはマックでチーズバーガーのセットを注文したら、チーズバーガーが2つついてきたことです。ドイツ人はたくさん食べるのだなと思いました。昼食を食べ終わると、ずっといきたかったドラッグストアのdmにいきました。ここでは、多くの商品が日本より安く売られていました。

最後に7月23日水曜日にも行ったトーマス教会に行きました。土曜日は水曜日の時と違い、人がたくさんいてにぎわっており、コンサートが行われていました。オルガンのコンサートでは椅子が振動で震えるほど、迫力がありました。土曜日はとても充実した日でした！

担当：松村 姫奈



日時：令和7年（2025） 7月27日（日曜日） 天気：晴れ時々雨



今日の日程

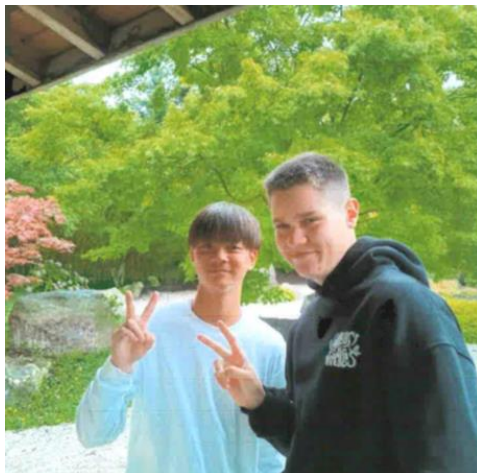
受入家族の企画

今日は明日からまた始まるプログラムに備えて少しゆったりした休日を過ごした。朝は少し遅く起き、昼ごはんを少し早めに食べ、ゆっくりBBQの場所へ行き、アルトゥルのおじさんの庭でBBQをした。ドイツの豚肉がとても珍しく、ソーセージも比べ物にならないくらい大きかった。大き目の四角いチーズも焼いてもらい、とても美味しかった。おじさんにあげた日本のプレゼントをととても喜んでもらえて、とても嬉しかった。外で食べるごはんはやっぱりとても美味しかった。帰ってきてからは家で写真の整理をしたり、日記を書いた。昨日26日（土曜日）は西山さんとホストファミリーと一緒にドレスデンへ行った。ドレスデンの街並みはヨーロッパという感じがして、ワクワクした。武器博物館という所に行き、16世紀頃にヨーロッパで使われていた銃や剣がたくさんあった。銃や剣はカッコよくてとても好きだったので、見ていてとても楽しかった。その後はドイツのマックを食べて、フォルクスワーゲンのガラス張りの工場へ行った。車の中身の機械を見れたりして、車に興味を持てた。ドレスデンは街を眺めるだけでも十分くらい素敵な都市だった。日曜日はBBQをしたくらいだったので、土曜日のことも書いた。1週間が終わってとても疲れがあったので、日曜日は長く休息を取れて良かった。でも意外とあっという間に1週間が過ぎたので、さみしい気持ちもある。あと1週間で沢山のことを吸収しようと思う。

担当：豊増 恒生



日時：令和7年（2025） 7月28日（月曜日） 天気：雨



今日の日程

託児所訪問

モーリッツブルク城・日本庭園見学

昼食（シュタービル）

太鼓のワークショップ

⇒各家庭へ

もう半分超えて早いなと思いました。土日の余韻に浸りながらの1日でした。ドイツ人学生もプログラムに参加してくれて、とても楽しかったです。ファミリーとの会話でモーリッツブルク城はよく聞いていたので、気になっていました。何があるのかと思うと、ベビーカーの歴史についての資料展示品が多くあり驚きました。ツァイツ市でベビーカーが生まれたことを学ぶことができました。その後は日本庭園へ行き、新聞記者からインタビューを受けました。日本でもなかなかできない経験をドイツで行ったことに変な感覚だったし、「ゲストなんだな」と改めて感じました。Davidと写真が撮れて嬉しかったです。午後の太鼓は気分アゲアゲでとても楽しかったです。

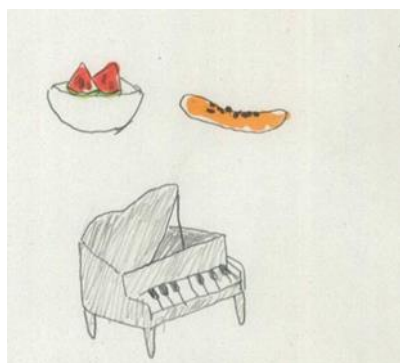
プログラム後は大野さんを家に招いてもらい、少し難しいカードゲームを行いました。ドイツ語で会話して説明を聞いて日本語で自分に説明をしてくれた大野さんが優しくて、本当にいい人でした。カードゲームを家族と行うことができ、一層家族として受け入れられた気がしました。異文化に触れることができとても嬉しかったし、貴重な経験になりました。



担当：檜枝 宏樹



日時：令和7年（2025） 7月29日（火曜日） 天気：晴れ



今日の日程

コロリート劇場
昼食（コロリート劇場）
ブーヘンヴァルト強制収容所事前 研修
⇒各家庭へ

午前は、コロリート劇場で、ドイツに来て楽しかったことや驚いたことを演劇で表現しました。演劇をすることがほとんどないので、慣れていない下手な演技だったと思いますが、団員もホストファミリーも全力で演技を楽しんでいて、面白かったです。演技の後は、設置されていたフッペルのピアノを弾いたり、BBQを食べてそれぞれ遊びました。体を動かす機会になってので、とても楽しかったです。私は、バレーとドッチボールをしました。

午後は強制収容所の歴史を学びました。今日説明していただいた中で、強制収容所は世界各国にたくさんあるという事を初めて知り、まだ勉強不足だったことを実感しました。また、強制収容所はナチス・ドイツだけ設置しているのではなく、日本軍もかつて使用していた事を知りました。歴史を学習していく中で他国だけに注目するのではなく、自国の事も知る必要があると思いました。説明してくれたフェリックスさんの曾祖母は、アウシュヴィッツ強制収容所で事務を務めていたと聞き、インターネットで調べるよりも重みを感じました。特に印象に残っているのは、ドイツの人が収容所を訪れた際に、「知らなかった」と言った事です。差別と無関心の結果がどれほど恐ろしいのか訪問する前に知れて良かったです。何も知らないまま訪問してしまうとショックを受ける内容でした。無理のないように訪問しに行きます。



担当：ティグリー ジェシカ



日時：令和7年（2025） 7月30日（水曜日） 天気：晴れ



今日の日程

市庁舎で市長歓迎会
乗馬クラブで乗馬体験
昼食（乗馬クラブ）
柔術クラブ訪問
⇒各家庭へ

今朝、鳥栖市の市長さん方がツアイツ市を訪問され、歓迎会が開かれました。私がドイツに来た時には、市長さん方のドイツ訪問はまだまだ先だと思っていましたが、あっという間にその日が来て、時の流れの速さを感じました。滞在も残りわずかとなり、とても寂しい気持ちです。歓迎会の後に乗馬クラブに行きました。生で馬を見るのは初めてで、その迫力に圧倒されました。テレビで見るよりも大きく、とてもかっこよかったです。練習用の馬に乗ったときには、いろいろなポーズを取ったり、立ち上がったりすることができ、とても貴重な体験になりました。馬の上はバランスが取りにくく、競馬の騎手は本当にすごいと感じました。本当は今日、カヌーを一番楽しみにしていましたが、残念ながら中止となってしまい、とても残念でした。

午後からは柔術クラブに行きました。柔術を習う前に頭を使ったゲームを行い、技には知恵も必要だということが分かりました。エミリアさんと組んだときには、私が弱すぎて投げ飛ばされてしまい、情けなかったです。板割りにも挑戦しましたが、板が硬すぎて手のほうが割れそうでした。それでも、楽しい一日でした。



担当：桑原 葵





日時：令和7年（2025） 7月31日（木曜日） 天気：雨



今日の日程

ブーヘンヴァルト強制収容所見学
昼食（ワイマール市内）
ワイマール市内見学
⇒各家庭へ

研修9日目は、ドイツの悲慘な歴史について学習し、自分の考えや感じた事を伝えることができました。

私がこの事業に参加した大きな理由の一つでもあった強制収容所訪問では、私たち日本人には想像もできないような、ユダヤ人に対しての差別以上の扱いや考え方やあつてはならなかったような事実について、ガイドの方に詳しく教えていただきました。一部しか残ってはいなかったものの、実際に使われていた場所や物を見て、説明を聞くと、目や耳を塞ぎたくなるような話や、早くこの場から立ち去りたいと思うような写真や風景がたくさんありました。その中でも一番悲慘だと思ったのは、処刑方法です。まだガスで処刑する方法がなかった頃は、身長を測るからと言われて立たされ、壁の後ろに開いた小さな穴から銃で撃たれるというもので、私はその話を聞いて、なぜこのような事にしか頭を使うことができなかったのか、なぜそんな発想ができるのか、本当に理解できませんでした。今までは他人事と考えていたこの歴史ですが、もし自分がユダヤ人で、この時代に生まれてこのような悲慘な人生を送らないといけないと思うと、この事実をなかったことにしたくなります。ですが、この事実をしっかり受け止めて、これ以上戦争や悲慘な出来事が起こらないように、一人ひとりが社会や政治に向き合うべきだと思いました。

担当：樋口 桃子





日時：令和7年（2025） 8月1日（金曜日） 天気：晴れ



今日の日程

レーベックセンター見学
送別会の練習
送別会

8月1日（金）、この日はドイツで過ごす最終日でした。午前中はツァイツ城にある博物館を訪れました。まず見学したのはヨハネス・レベック博物館で、木版画家として知られるレベックの作品や自然をテーマにした展示を見ました。その後、体験活動として実際に木の枝を編んで小さな入れ物を作りました。簡単そうに見えて意外と難しかったのですが、みんなで工夫しながら完成させることができ、とても達成感がありました。続いてベビーカー博物館にも行きました。ここではベビーカーの歴史についての展示を見て、クイズ形式で学ぶ時間もありました。日本ではあまり見られないユニークな博物館で、とても印象的でした。

午後からは、この研修の締めくくりとなる送別会が開かれました。最終日ということで、これまで一緒に過ごしてきた日本とドイツの生徒たちが出し物を披露しました。送別会の前にはリハーサルや練習の時間もあり、なかなか上手くいくか不安でしたが、みんなでたくさん練習した成果もあって、本番では自信を持って披露することができました。また、この日は鳥栖市の向門市長も来てくださり、出し物を披露する際はとても緊張しましたが、上手くできて安心しました。

まず全員で、この2週間を振り返るような演劇をしました。パントマイムのように台詞を使わず、BGMに合わせて動きだけで表現する形だったので、言葉がなくても気持ちが伝わることを感じました。次に日本の学生の有志が可愛らしいダンスを披露して会場を盛り上げました。そして書道が得意な学生が、みんなの前で大きな紙に「出会に感謝」と力強く書き上げました。その瞬間、会場から大きな拍手が起こり、心が温かくなるようでした。最後は全員でビートルズの「レット・잇・ビー」を歌い、とても素敵な演奏になりました。音楽を通じて一体感を感じられ、胸がいっぱいになりました。

また、ツァイツ市のティーメ市長からプレゼントをいただき、直接手渡していただきました。大切な思い出として持ち帰りたい宝物になりました。

2週間の研修は本当にあっという間で、この日が最後だと思うととても寂しかったですが、最後にたくさん笑って、歌って、交流できたことが何より嬉しかったです。ライブツィヒやツァイツで過ごした時間、そして一緒に過ごした仲間や出会えた人たちに心から感謝したいと思いました。

担当：宮原 識支奏





日時：令和7年（2025） 8月2日（土曜日） 天気：晴れ



今日の日程

ライプツィヒ空港→ フランクフルト国際空港 →羽田空港

今日はとうとうホストファミリーとドイツとお別れの日になりました。不安と緊張でいっぱいだったドイツ生活から始まりやっと慣れたところに別れとなりました。本当に短い2週間でした。平日は今回一緒に訪れた子と楽しみながらプログラムに参加し、みんなと仲良くなり他のホストファミリーの子とも話す機会があり段々と仲良くなっていきました。休日はホストファミリーと少し離れた歴史ある街に行き、生で自分の目で本物を見ることができた嬉しさはとても大きいものでとてもいい経験になりました。そんな2週間が終わり、もうこのメンバーで訪れることは難しいと思うと、とても悲しくて悔しい気持ちがあふれてきました。私はホストファミリーと英語をうまく使えなくて、もう少し勉強して訪れたらよかったと後悔しました。しかし、みんなと過ごした時間は本当に楽しいものでした。

最初は今回一緒に訪れた子たちのことをあまり知らなかったのですが、研修を重ねるにつれ呼び捨てで呼び合えるほど仲が良くなりました。やはり研修でドイツのことを予習していくことと仲間と話すことはとても大切な事だと感じました。機内では大体寝て過ごしました。行きは上を着ても寒くておなかが痛くなり薬を飲むほどいい思い出はなかったのですが、今回はそれを反省し、上着を2枚着ました。機内食は日本の料理が出てきました。

また機会があったらドイツに行きたいです。そして一緒に行った友達と何か他のことで集まったり遊んだりしたいです。



担当：山下 莉世





日時：令和7年（2025） 8月3日（日曜日） 天気：晴れ



今日の日程

羽田空港→福岡空港

→鳥栖市役所到着

解団式（帰国報告）

昨日から日本行きの飛行機に乗っており、本日ついに帰国の途につきました。ドイツを離れる瞬間、窓から見える街並みが遠ざかるにつれて寂しさと感謝の気持ちが胸に広がりました。機内ではこれまでの二週間を思い返し、ライブツィヒ観光やブーヘンヴァルト強制収容所訪問、現地の方々との交流など全てが新鮮でかけがえのない経験だったと実感しました。言葉の壁に苦労したときもありましたが、その度にホストファミリーや仲間の優しさに助けられました。その人たちにはすごく感謝しています。昨日から今日までの長旅の疲れもありましたが、同時に学びと成長をかみしめる時間でもありました。この経験を胸に、日本でも新たな挑戦を続けていきたいと思います。



担当：竹村 洋亮

